第２期　瀬谷区地域福祉保健計画　第３回策定委員会　議事録

平成22年6月24日（木）
午後3時～午後5時
パートナーせや

● 出席者

・策定委員メンバー　　15名

名和田委員長　網代副委員長　田村副委員長　水野委員　早坂委員　岸本委員　河野委員
清水委員　堀川委員　北井委員　永嶋委員　上原委員　大貫委員　中野委員　本田委員
（欠席：米倉委員　小澤委員　諸橋委員）

・オブザーバー　　石原福祉保健センター長、金丸総務課長、石川区政推進課長

・事務局　　9名

・コンサル（記録）　　2名

配布資料　　資料1　第2回策定委員会議事録　議事録要旨
資料2　第2回策定委員会での質問事項について
資料3　全域計画　平成 21 年度までの振り返りおよび今後の方向性（概要版）
ネットワーク（連携・人材育成・情報）に関する事業
資料4　全域計画の振り返りに対する評価について（依頼）

1　開会あいさつ

福祉保健課長

- 本日は、ネットワークを中心に人材育成や担い手も含め議論していただきたい。
- 前回まで欠席されていた副委員長がご出席されているのでよろしくお願いする。

委員

- よろしくお願いします。

委員長

- 今日は次第3のネットワークについて議論したい。
- まずは第2回の報告を事務局からよろしくお願いする。

2　第2期　瀬谷区地域福祉保健計画策定委員会（第2回）の報告　（資料1．2）

事務局　資料1－1議事録（要旨）にて第2回委員会の議論の概要について説明。

委員長

- 第2回の議事録について、自分の発言の要旨を確認して気づいたことがあったら、7/5 までにお知らせ願いたい。

事務局

- 追加ですが、配布資料2に前回質問があった「子育てサポートシステムの会員数・割合」と「瀬谷区児童虐待防止連絡会のメンバー構成」「高齢者虐待の状況」等をまとめた。自治会の加入率は市内で瀬谷区は高い方である。

3　ネットワーク（連携・人材育成・情報）について　（資料3）

(1)第1期　地域福祉保健計画　全域計画の振り返り

委員長

- 人材の問題は第4回に議論する、ということだったが、人材もネットワークとは切り離しがたいので今回ネットワークにからめて議論したい。それを了承いただけるという前提に資料3を用意したので、よろしくお願いする。

事務局　資料3の説明　振り返りと今後の方向性について

- 事務局で論議し、ネットワークには連携・人材育成・情報の分野が含まれると考え、その分野の事業を抜粋して資料3を作成した。
- ネットワークを地域福祉保健の視点で考えてみると、地域の問題解決に向けて住民自らが何らかの連携をすることがネットワークである。
- ネットワークとは、階層によって変わってくる。小さな地域で解決できなければ、もっと大きな区域で解決に向かっていくと考えられるが、最終的にまた地域に戻って解決するものではないか。ニーズ→発展→解決。
- 資料3は各項目について継続、拡充など今後の方向性を右の欄に載せている。
- 配食サービスや食事サービスの連絡会、NPO団体の情報把握やネットワークなどは拡充は必要不可欠。
- 健康づくりに関する人材育成、次世代福祉学習サポーター育成、等ボランティアの発掘育成は継続または拡充としている。
- 身近な場所での情報提供は、ちらしを置く場所等拡充してきたが、広報媒体を見直すこととしたため縮小となっている。

(2)第2期　地域福祉保健計画　全域計画に反映すべき事項について意見交換

・ネットワークとは…常に繋がっている状態

・地域福祉では…住民の「何とかしたい」を、住民自らが解決していくための日常的な連携

委員長

- 今日のメインの議題「ネットワーク」について事務局で資料3にまとめてもらった。ネットワークというのは広がる、いつもつながっているというイメージで、関連する要素が連携、人材、情報ということ。これに限定せず、どこからでも自由に議論をお願いしたい。

委員

- 「身近な場所での福祉保健情報提供」の「縮小」とは、どのようなことかもう少し聞きたい。

事務局

- 資料4－2の方に詳しく記載してあるので見てもらいたい。情報の設置箇所を減らすのではなく、ファイルの中身を整理して縮小するという意味。縮小した分はインターネットなど他の媒体も活用していき、事業は継続していく。

委員

- 薬をもらいに行くとき、福祉保健情報をよいと思って見ていた。インターネットもよいが、待ち時間に見られるというのがよかった。資料を置くという方法を止めて、インターネットならみんなが見るだろうという考えで縮小というのは気がかり。

委員長

- 次回、骨子案が出されるので、そこでもっと詰められると思う。本日はそのような意見を活発に議論したい。

委員

- 全域計画と地区別計画をつなげるネットワークも大切だと思う。
- 資料3は区レベルのネットワークが記載されているが、区でやっているものは区レベルで終わってしまうことも多いが、それを地区につなげるのが重要だと思う。全域を地区別（色々やっている、そして課題が色々出てくる）につなげる方法が重要ではないか。区レベルの団体が自分の地区に戻り、どう還元できるかについて、どこかでおさえられるとよいと思う。特に人材育成は、地区と区レベルをつなげるネットワークが非常に重要だと思う。

委員長

- これは非常に重要だが、具体的実践例、イメージ等あるか？

委員

- たくさんあるが、各種団体で、区レベルの活動しているとそこで終わってしまう。
- 地域では、それぞれ色々な問題を抱えてやっているが、区レベルではそこに入っていけないことがもったいないと思う。区レベルの構成員が、もう少し地域に入っていく意識を持つことが解決の糸口だと思う。
- 地域は区レベルは入ってこられない、区レベルの構成員も一緒にやっていければよいと思う。

委員長

- 私も他で活動していているが、皆様もなんとなく言っている意味がわかるのではと思う。

委員

- 災害ボランティアネットワークについて、区レベルでの活動も意義があると思うが、地域の防災拠点と連携してこそ力がより発揮できるのではないかと思う。前から要望しているがまだ果たされていない。
- 子どもの虐待防止ネットワーク、認知症高齢者はいかいネットワーク、高齢者虐待ネットワークについてもやっていることは知っているが、地域とそのネットワークがどのように結びついて効果を発揮するかが重要。

委員

- 地域の課題は地域の状況に応じて解決していくことが重要なことは知っているが、区域全体でやった方がふさわしい場合もある。
- 例えば手話の人材育成や傾聴ボランティアなどは区域でやって地域に還元したほうがよい。そのような活動もあるのではないか。そうすることによって区と地域の「両輪」が活きた活動になっていくと思う。

委員

- 私は全区域でやったことを地域に還元したらよいという意味で言った。
- 区でやった事を区だけで留めるのはもったいない、という意見。

委員長

- だいたい皆様了解していると思う。

委員

- 良い例として、地域に戻ってくる方法として、瀬谷第四地区では元気塾の講座（介護予防を身近な地域で実践する人材育成）に地域福祉保健計画の推進母体から数人参加し、地区の活動に活かしている。認知症の勉強も、民生委員が習ったことを地域に伝えるなど、ひとつひとつできてきていると思う。
- ネットワークが広がった良い例だと思う。子育ても、地域で子育てしていた親が幼稚園に子どもが行くようになると今度は支援者側として参加してくれるなどの動きがあり、できつつあるので、これは区、地域の活動の垣根はあまり考えなくてよい。

委員

- 元気塾など、区でやっている大事な取り組み（人材育成）が資料3に入っていない。地域ケアプラザでも団塊の世代の取り組みなどを行っているが、地域と連携しているよい例だと思うが。

委員

- 子育てやラジオ体操の話（瀬谷第四地区の元気塾の取組）を聞いて、障害者の活動も会議だけでなく地域ごとに活動が広がるとよいと思った。子どもの虐待防止のネットワークの存在や障害者自立支援会議に誰がいるか、誰がいてどのように相談したらよいのかわからない。つまり利用する側に情報が届いていない。また、資料3の「身近な場所での高齢者・障害者相談の充実」として「障害者自立支援協議会で個別支援会議の手法を学び、各事業所のスキルアップが図られた」とあるが、利用者側にはどんなスキルアップがされたかわからないのが課題だと思う。

委員

- 子育ての点でいうと、昔関わった取り組みであるが、子育てサロンで立ち上げた活動が全地域に根づいてきたと思う。子育てをしてきたお母さんがまた戻ってきたので心強い。小さい時からみんなが仲間として育つ環境を整えていければよいと思う。

委員

- 私は、食生活等改善推進員の人材育成セミナーを受講したのがきっかけで、この会に参加させていただいているが、セミナーで得た知識を区レベルでは活動しているが、地域に伝えきれていないと感じ、先ほどの言葉に耳が痛い。健康づくりとして食の勉強をしていてバックに栄養士さんがついてくれていることを、自分達が地域の人になかなか発信できない。これは課題だと思う。

委員

- 先ほどの障害者自立支援協議会について、説明したい。
- ネットワークは、町内会などの「地縁型のネットワーク」と、配食等の「テーマ型のネットワーク 」と、「サービス提供側のネットワーク」があり、この自立支援協議会は「サービス提供側のネットワーク」である。
- 目的は「瀬谷区で暮らす障害者が安心して暮らせる地域づくりのため」で、障害の全体を取りまとめる瀬谷の地域活動ホーム「太陽」が中心になって、小中学校、病院、養護学校、地域ケアプラザなどサービス提供側がそれぞれの持分と役割分担をしながら、いかにサービス提供をスムーズにしていくかを議論し、課題解決していく会。全体会、個別支援計画検討部会、児童部会、当事者を囲む座談会などがある。3年前は全体会しかなかったが、だ

んだん充実してきた。

委員長

- 地域の活動と区の活動をみた場合、どちらかができた、できない等、各地区と区全体の関係の中でネットワークをみる事は、重要な論点。事務局はこれまでの議論についてどうか。

事務局

- 貴重な意見。地域福祉で考えると、問題を地区と区域が階層的に解決していければ理想的。問題は多様だが、最後に地域に戻せれば理想的だと思う。トップダウンでやらないと地域に浸透しないものもあるが、災害ボランティアネットワークなど、計画の中にきちんと明記していくと計画がつながっていくことになるかと思う。

委員長

- 災害ボランティアネットワークなど区レベルで発信し地域に根ざしていくものと、地域から発信していくものと、二種類パターンがあると思うが、基本は地域→区域→地域というのがよいと思う。
- その材料を増やす意味でも今の議論を進めたい。または別の意見でもどうぞ。

委員

- 災害ボランティアネットワークの件だが、発足したことは評価しているが、ネットワークの点では、いざという時には地域とのつながりに不安を感じる。地域とつながった訓練、話し合いが持たれていないことが残念で、現時点では地域とつながっていない感じがする。活動実績を地域とつなげることを活動計画に入れていくべきだと思う。
- 認知症高齢者はいかいネットワークも、活動は時間的に制限されており、夜は警察に頼っている。大和市などは違うやり方をしており、地域住民にもっと協力してもらっている。やり方を変えれば効果がもっと現れそう。関わりある地域にも情報が流れ協力してもらえるとうまくいくのでは。一部の機関だけではだめだと思う。
- 被害妄想のある認知症高齢者が周囲とトラブルを起こした時、周囲の理解があるとよいが、区役所や地域ケアプラザに相談してもプライバシーの問題で制限がある。ここに相談すれば安心という所が今後あるとよい。

委員

- 子育て関係団体のネットワークの評価について、団体が増えたというだけでなく、どんな効果があったかを計画に盛り込んだ方がよい。スキルアップなどは数値には出にくいが、「スキルアップが図られた」だけではわかりにくいので、障害者の相談が何件増えたなどの数値で見える計画にしてほしい。

委員長

- 今の発言は第1期でできたことを第2期では内容の真価を問うという意見。
- 第1期の時は一定の基盤が作られた、第2期に向かってどう深めるか、という感じだと思う。
- 例えば情報について、第1期で情報を伝えた結果、どれだけ進展したか、やった結果どうだったかというのはまだ検証できてなく、第2期に向けての問題提起だと考えられる。第2期に向けて情報という観点ではどうか。

委員

- 子育て活動の「子育て応援カレンダー」ができ、瀬谷区以外からも広範囲に動けるお母さん

が参加してくるが、地域の中で家から出ない方等、本当に出てきてほしいお母さんをひっぱりだしてという所まではいっていない。活発な方のみならず、もっと家にいるお母さんに知らせたい。

委員

- 地域の交流について(「老人クラブリーダー必携」を見ながら)自治会、子ども会や婦人会との連携をとって活動すると書いてある。(H18 頃の資料)
- 活動の数が増えてきたのはよいが、色々な問題の対応を、みなさんと勉強したいと思う。
- ケアのネットワークという点でも、増えた数ではなくて、活動の内容が重要だと思う。活動のネットワークも児童の登下校の安全など老人クラブでも協力できることがある。

委員

- 情報について、行政は、情報を出すと自分の責任は終わったと思いがちだが、実は、情報は競争になりがちで、むしろ情報を自分から受け取れない人、情報弱者にどのようにして情報を提供するかの視点を持つことが、福祉では重要。

委員長

- 発信した情報がどう届いたか、どうすれば届くべき人に届くのか、という事。

委員

- 先ほどの福祉保健情報のファイルの件につながる。インターネットが普及しているから縮小とあるが、老人クラブの人がインターネットを見るかというと 1 割も見ないはず。肝心な人に届かないのになくなるはおかしいのではないか。

事務局

- ファイルを見てくれているのは重々承知しており、ファイルの廃止はしない。情報の中身を精査するということ。

委員

- ネットワークは何のためにあるかと考えた場合、支援する側の情報共有もあるが、大事なのは当事者、特に問題を抱えている人にどのように届けるかが重要だと思う。つまり情報を自分から受け取れない人への眼差しを持つことが重要。問題を発信できない人、情報をキャッチできない人をどうやってキャッチして福祉につなげるか。そのためのネットワークなのではないか。
- その意味で資料3の振り返りを見ると、子育て応援ネットの参加数は46団体と増えて、活動の内容も充実しているのは確かだが、実は名前だけという場合や関係団体はもっとあるはずなのに参加者が同じ人ばかり等気になる点もある。問題点はまだまだあり、細かく探っていくと、いろいろな課題や問題が出てくると思う。それが振り返りに出てくるとよかったと思う。

委員長

- 子育て応援カレンダーの先ほどの意見もそうだが、情報だけでなく真価を問うという意味では、今後の取り組みでは継続というよりも、第1期はここまでできた、第2期はここまで発展させたい等、具体的な指標が必要かもしれない。

委員

- 本当に情報がほしい人、問題を抱えている人に情報を届けられるかという話だが、見守りが

地域の中で充実していると、誰がどこでどんな課題を持っているかが把握され、当然、情報はそこに行くはず。まさしく見守りの充実と地域福祉保健計画のつながりがここで問題になってくるのではないか。

- 見守りが地域の中で充実していると、課題が見え、地域住民も勉強しながら、行政の様々の情報が提供できると思う。そのつながりも重要だと思う。
- 情報をまくだけでなく、地域がどのようにして、地域の役割として、情報がほしい人を見出し、情報を提供するかが重要なのではないか。

委員長

- 重要なご意見ありがとうございました。

委員

- 先ほどの指摘、地域で見守り、何が必要かを把握するのは重要な問題だと思う。
- まちの防災知恵袋事業についても、最初は民生委員が同意を得た要援護者リストに基づき本人に聞き、次に自治会で取組が進んできたらそちらにつなげるとなっているが、1 年たっても2年たってもできていない。まちの防災知恵袋事業はスピードアップしなければいけないと思っている。
- 1年に1回要援護者の訪問に行く時に、何とかしなくてはいけないと思うとともに、相手もどう展開するのかと注目しているのを感じる。
- 先ほどの「地縁型」と「テーマ別」があるという指摘は納得できる。地縁型の組織で、テーマ型をつなげるとき、とても苦労する事だということを身をもって感じる。地縁型にテーマ型を入れることがネットワークの鍵だと思う。

委員長

- 全区的で学んだことを地域に活かしたい場合、地域にスムーズに活かせる良い方法で何かあるか。

委員

- 認知症に関する活動をずっとやっているが、はいかいネットワークというのはどういう所でやっているのか知りたい。36 機関というのは地域ケアプラザ、病院等の他はどこか。

事務局

- 瀬谷区内のグループホームや施設、警察、消防などが入っている。

委員

- 先日も徘徊する高齢者を夜見つけて警察に連れて行ったが、これから徘徊者が多くなると思う。地域ケアプラザで何かやっているのだろうという見当はつくが、25 年も認知症高齢者の活動に関わっているが詳しい情報が入ってこないのがおかしい。関係機関の数も 36 もあると思えない。

委員

- 立ち上げの時にその委員会にいたが、関係機関が 36 あるのは 24 時間コンビニや郵便局が協力している。唯一相鉄は協力してくれなかったので、徘徊者は電車に乗ってしまい新幹線で桐生でみつかった、ということがあった。
- 不思議と徘徊者はすぐわかるので、連れてくることはできる。小さな介護事業所だが、そのような方を見つけたらまず区役所のはいかいネットワークに問い合わせている。

- 協力機関は結構あると思うし、最終的に区役所につながると思うけれど、そういうものが、もっとオープンになるとよいと思う。

委員

- オレンジリングのことをもっと知ってほしい。介護する人、される人両方オレンジのリングだが、2 時間の講習を受けた人しか知らないし、もらえないので知っている人が少ないと思う。徘徊の人も増え、みなさんがオレンジのリングの意味を知れば、いろいろ良くなると思う。

＊ オレンジリング：認知症を支援する「目印」として認知症サポーターが付けているもの。

委員

- せっかくネットワークがあるのだから、区民がわかる手立てを考えたらよいのではないか。困ったときにどこに相談すればよいなどの細かなケア、発信の工夫が必要なのではないか。

委員

- 認知症高齢者はいかいネットワークのことについて。わたしたちの地域では地域から徘徊者が地域外に出ないようにという気持ちで見守りしている。少し様子がおかしいとか不自然な時間に歩いている等気づくことがある。
- はいかいネットワークそのものはよいが、その団体があるから安心なのではなく、事業の PR が足りない。住民自ら守っていくのも大切。
- 自ら徘徊者を止めた事が3回ある。夕方店に来た人について、ピンときて、店に留めておいて届け出たり、道を訪ねてきた人が、帰り道がわからず、ポイントを聞き聞き、送っていったり、夕方暗くなった頃、民生の方が、近所のおばあさんを探していて、すぐに自分のトラックにスピーカーをつけて周知して見つけた経緯もある。
- いろいろ徘徊パターンがあるが、時間との勝負で徘徊高齢者が1夜を過ごすのは無理なので、自分の事のようにみんなが周りをみて注意するよう呼びかけが大切。

委員

- 今日はじめての出席で2回分の資料を見てきたが、少しずつ状況を理解できてきた。意見があったらまた伝えていきます。

委員長

- 医療の協力も重要なので、これからもよろしくお願いしたい。
- 第1期計画は非常にがんばった。基盤ができている。その基盤をもとに第2期にどのようにステップアップしたらいいかが本日はいろいろ意見が出てヒントがたくさんあったと思う。
- 老人クラブの話で思った事だが、同じ活動の連携の事例が多いが、別な活動の連携も重要。港南区にも異業種連携の例がある。今日は同種の連携を資料ではたくさん挙げられている。

委員

- 基本的に地域福祉保健計画はまちづくりだと思う。福祉という言葉でまとまってくくられがちだが、基盤は地域福祉保健計画はまちづくり計画だと思う。
- その視点でいうと、ここに出ている以外の団体との連携も重要。大きくとらえることが重要。
- 人材を育成する講座も重要だが、地域が人を育てるのも重要だと思う。地域が人を育てられる地域、瀬谷区になっていくのがとても重要だと思う。それを根底に計画をたてていくことが必要。じゃあどうしたら、というのが次の課題だとは思う。

委員

- はいかいネットワークで思ったのだが、障害児・者がいなくなったとき探してもらえるのにも使えるのではないか。自分の団体にも知らせたい。ネットワークを皆が知るという事はよいと思う。

委員長

いいアイデアだと思うが、うまく機能するようにつくらなければいけないと思うので、また次回議論したい。

4　第4回策定委員会へむけての依頼　（資料4）

（1）第1期瀬谷区地域福祉保健計画　全域計画の振り返りに対する評価についての依頼

事務局

- 評価は量ではなく真価だという意見もあったが、資料4－2ではとりあえずわかりやすい効果として数をあげた。
- 単年度ではなく4年間の評価を事務局で行った。
- あるべき姿がどれだけ達成できたかという評価を◎○×を記入していただきたい。
- それぞれの目標についてご意見や感想、具体的に地域でできること、地域と一緒にできること、行政ができること等、今後の取り組みの方向性についてもご意見をお願いしたい。今後の取り組みの方向性もあわせてそれぞれ担当課が、継続、縮小、拡充等理由も書いてあるので参考にしてもらいたい。
- 7/5（月）までに返送してもらいたい。その集計をもとに骨子を作成したいと思うのでよろしくお願いする。

委員長

- もともと、この委員会はハイスピードで審議すると言っていたが、皆さんのご意見がないと事務局も案が作れないので、ここが正念場ということで、よろしくおねがいします。

事務局

- 記入していただいたシートを送っていただき、原本が必要な人には後でコピーをとってお返しする。わからないところは個別にお答えしたい。

（2）第4回の内容について

委員長

- 次回は、事務局がこれを元に骨子案を提示する。
- 特定の論点で議論する事もあるかもしれないが、基本的にそのようなスケジュールになっている。

〈今後の日程〉

第4回　7月22日（木）午後2時から午後4時　区役所2階AB会議室

第5回　8月26日（木）午後2時から午後4時　区役所1階会議室

以　上